

(別紙2)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501640		
法人名	ケア・サポート青い鳥有限会社		
事業所名	グループホーム青い鳥		
所在地	津市豊が丘二丁目38番6号		
自己評価作成日	平成29年10月10日	評価結果市町提出日	平成30年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kanistrue&JiyosyoCd=2470501640-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	評価認証推進機構株式会社
所在地	三重県四日市市桜町3690-4
訪問調査日	平成 29年 11月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所十二年目の当事業所は理念の「四笑」を掲げ、職員全員が統一した認知症援助に取り組める様、社内研修会を継続しながら、実践に向けて日々模索検討していく方針を開所以来変えていない。今年度は認知症ケア専門士である管理者職員二名が認知症キャラバンメイト資格を得て、地域の老人会に向けての講義を2回実施した。合わせて約40名の高齢者に集まって頂く機会を頂けた事は事業所としての社会貢献として一歩前進できたと思われる。又、このことで日々のより良い利用者援助につながる事を目標に他職員への啓発にもなったように思われる。
例年通り、日課としている機能訓練、重症者の終末期援助、災害訓練、地域交流も本年度も実行に至っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営者は利用者向き合い、いつまでもその人らしい生活が継続できるようにという信念で経営に当たっている。
経営者自らキーボードを演奏して懐かしい歌を皆で歌ったり、職員が考案したりハビリの要素を取り入れたレクリエーションを、毎日多くの時間で実施している。その為、利用者は楽しく活動を行う事でその人らしい生活を続けられる活力を得て、自宅での生活の延長でありながら、共同での生活を楽しめる事業所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入社員は入社時に理念とその意義、具体的な対応方針を説明している。また、折につけ全体会議で理念を踏まえた具体的な取り組みを研修している。	利用者への援助には、笑顔を引き出すコミュニケーション方法が最善と考え、利用者・家族・地域住民そして職員の『四笑』が、最適との判断から、開所2年目に理念を変更した。これを全職員が日々の活動で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員を伴って散歩や地域のスーパーマーケットへの買い物、地域行事への参加など地域との接点を持っている。また、毎年地域の防災訓練(シェイクアウト、一斉避難誘導等)に参加している。	自治会に入会し地域の行事やアクティブシニアのグループ活動に参加している。研究熱心で向上心豊かな職員達が開催する地域に向けての「認知症学習会」は、参加者から好評を博している。小学生や中学生との地域交流も盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症研修会を開催し、具体例を示しながら地域に向けて発信している。今年は地域老人会を対象に2回開催し、合わせて40名ほどの参加を頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・包括、地域の方と家族様の参加を得て利用者様の普段の様子を供覧したり、報告会をスライドで行なったりして得られた意見を企画や援助に反映している。	運営推進会議に、地域のアクティブシニア活動やボランティアのショー鑑賞会や消防訓練等を上手く活用し、広く地域住民や関係者、利用者やその家族が参加しやすいように工夫されており、幅広い活発な意見を収集している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政とは運営上の疑問点を質問したり、相談に応じて貰っている。連携方法は極力出向いて面談の手法を採るようにしている。評価結果は毎年提出し、入居者状況の説明も行なっている。	施設長が頻繁に訪問し関係を構築するとともに、適宜施設の状況を伝達して、担当者の理解も得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議に研修会において拘束について討論する機会を設けている。また、禁止対象となる具体的な行為を事業所内に掲示し啓蒙している。契約時には家族様に対し起こりえるリスクの説明と対応方法を丁寧に説明し理解を得ている。	年間スケジュールに従い、全体会議毎に代表者より全職員に向けて研修を行なっている。医療上の観点からベットの安全柵の利用が必要な場合も、医師や家族と綿密な意見交換により、利用者の負担を最小限に留める工夫も実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については全体会議で研修を行い、具体例を交えて研修している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議で研修を行なっている。制度の説明だけでなく具体例を交えて判りやすく説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は判りやすく丁寧な説明を心がけている。改定時は説明の上書面にて同意を得ている。不明な点等質問を伺い、ご理解・納得をいただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム長が必要物の連絡時や面会時に近況報告を行ない、早期対応ができています。担当者会議等でも家族が意見や思いを伝えやすい環境作りに配慮し、必ず尋ねている。	面会時や電話対応時に、必要な連絡の他に利用者の様子を詳しく説明し、家族や利用者の希望や意見を聞いて迅速に反映させるよう努めている。職員からの積極的な声掛けにより、利用者家族から意見などが言いやすい様働きかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見・要望は特に重要と捉え、必ず対応を取る姿勢を継続している。意見箱が設けられており、職員は無記名で意見を述べる事が出来る。ここで得られた意見は全体会議で検討している。	代表者や施設長は、職員が意見を言いやすいように常に配慮している。連絡ノートを活用して上がった課題を検討したり、目安箱を通じて無記名で意見が出せるので、職員間で本音の意見が言いやすい土壌ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの事情に合わせた勤務形態で無理なく勤務する事が出来る。パート職員に対しても賞与がある。代表者からの励ましの言葉がけはやりがいや向上心につながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加希望には休暇の調整や受験料補助制度がある。また、全体会議で報告を行ない法人全体のレベルアップにつながっている。現在ケアマネ5名・介護福祉士4名いるが、その内ケアマネ2名・介護福祉士2名・認知症ケア専門士2名は何れも入社後資格取得した。今年、「認知症サポーター キャラバンメイト」修了者が3名誕生した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議などの機会を捉えて相互訪問し意見交換する機会を確保している。他施設を訪問した職員は報告会を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	寄り添い介護を常に心がけ、入所時から本人の言葉や様子など安心できるように支援出来ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの利用者の様子や家族の事情を伺いながら不安を解消し安心できるような関係作りが出来ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントや課題分析表を活用する事でニーズを把握し、より良いサービス計画が立てられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者との会話で職員にも笑顔が見られ、良好な関係が構築できている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との近況報告や会話を楽しむことが出来ており良好な関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会は24時間自由に行なう事が出来る。また、墓参りや外出等にも支援出来ている。	フェースシートやアセスメントを職員全員が共有・周知し、利用者一人ひとりの生活歴などを把握しての外出支援や、墓参り等の支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	殆どの利用者は日中をホールで過ごされ居心地の良い場になっている。利用者同士も会話を楽しみ、支えあえるような関係性も出来てきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後であっても近況確認をしたり相談できる旨を知らせており、関係の保続に勤めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望・要望・心情を汲み取る洞察力やコミュニケーションの重要性を職員に伝え続けている。一人ひとりの利用者向き合い、話を聞くことや表情、毎日の様子などから思いや意向を把握できるように努めている。	利用者の思いや意向を汲み取る洞察力を重視した職員への指導が為されている。一言しか言葉を発しない利用者の同じ言葉でも全て意味が違うことに気づき、全員が感情を見落とさないように心がけ、観察や研修を通じて、今では全ての意味が分かるようになった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時または普段の会話から利用者が歩んできた暮らしを知ることができるよう努めている。 担当者会議を通して家族から聞き取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員と連携を取りながら、利用者一人ひとりの現状の把握に努め、早期対応が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	概ね3ヶ月に1回生活目標を作成し、職員に評価をってもらうことで現状を知り、課題を発見したりケア方法を検討したりして、家族や医療関係者と連携を取りながら介護計画を作成している。 モニタリングは毎月1回様子を記入しながら行なっている。	介護計画は職員全員がいつでも確認出来る環境に置かれ、毎月モニタリングがなされている。ケアカンファレンスは施設長と経営者が話し合い、ケアマネが集約して記載しているが、折に触れ従業者から意見聴取し、見直して介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録を確認して出勤日以外の様子を把握することが出来ている。また、詳しい内容については職員に尋ねる事により詳しく状態を把握し介護計画に反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者は同法人の通所介護利用者と交流を持つ事が出来る。細かいニーズにも職員が家族と連絡を取りながら柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所として自治会に入会し、防災訓練には毎回必ず参加するなど協力関係の構築に努めている。 地域の小中学生との交流やボランティアとの交流も継続実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医、または個人の従前のかかりつけ医との選択が出来るように説明している。	利用者の多くは入所後1年間ほど、馴染みのかかりつけ医に受診していたが、現在全員が契約医の往診を受けている。契約医は事業所と同一団地内なので緊急時の対応も早く安心できる。他科受診時は家族に依頼するが医療情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の来訪時は現状を説明し終了時には報告を受ける連携をとっている。 看護師の助言により適宜受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先とは治療見通しや退院後の受け入れについて情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者や計画作成者を中心に話し合いを持ち、家族を交えながら介護方針を確かめている。 看取り対応には主治医・家族・ケアマネ・管理者でカンファレンスを設けている。	契約時に家族と看取りの指針を取り交わし意向を聞いている。本人からもアンケートで意向を聞き取る予定である。サービス担当者会議での検討、合意内容は介護計画にも反映される。ターミナルケアの経験も十分あり、医師との連携も密にできるようにしている。	重度化や終末期は本人や家族の気持ち揺らぎ、意向の変化が激しくなる時期である為、施設と家族・本人との意向の統一の為に、意見交換の頻度をより多く持たれることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議で看護師を講師として研修を実施したり、消防士を招いて研修を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域活動の一つであるシェイクアウト訓練や防災活動を行っている。また、防火管理者たる職員が消防署と連携を取りながら研修や訓練を行うことで全職員が体得できるようになっている。	夜間含め年2回のホームでの訓練の他に、地域の避難訓練にも参加し、実際に近くの避難所まで誘導して非常時に備えている。防火管理者が消防署等関係機関との連携をとり、計画・訓練もきちんとできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や入浴など羞恥心に配慮した声かけを行っている。入浴時はホールから見えない位置での脱衣を促すなど配慮している。また、利用者一人ひとりの性格を把握した上で、言葉遣いを中心に尊敬の気持ちを持って接遇するよう心がけている。	トイレ・入浴などへの誘導は、一人ひとりのパターンや性格を把握し、人格を尊重しながらその場に合った配慮での声掛けがされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	パーソンセンタードケアの考え方に立ち、職員の押し付けにならないように、常に利用者様の意向を仰ぐようにしたり、複数選択肢を提示したりして、自己決定が出来る場を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様本人の気持ちを尊重した個別対応に努めている。しかし、規則正しい生活リズムも心身の機能維持に重要であると考えているので、日課を設定し、機能訓練やレクリエーションには極力参加するよう促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床介助時の洋服選び等は職員が同席し身だしなみやお洒落に配慮している。また、毎月1回外部より訪問美容に来て頂き、利用者様やご家族の意向に合わせて内容を選択して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングはオープンキッチンになっており、食事作りの際の匂い・音等五感を刺激し、食事を楽しめる構造になっている。また、能力を見極めた上で、出来る限り準備や片付けにも関わって頂いている。利用者様が食べたい献立や「おやつ」を職員と共に作ることもある。	利用者の重度化が進み、今は調理員が作っているが、配膳や後片付け等、状態に合わせて役割を担って貰っている。様々なイベント時には、仕出しを取ったり、職員と一緒に作ったかき氷やお好み焼きでパーティをしている。	窓辺やテラス先での食事など、気分を変えての「食を楽しむ時間」を増やす計画が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を一覧に記載して職員全員が共有している。食事形態やトロミの工夫など摂取できるようにしている。希望者にはヤクルトを定期購入して毎朝摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の利用者には歯磨きを促し、手直しかから全介助まで個人に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツやオムツの使用者が増えていたが、出来るだけ自力でトイレでの排泄が出来るように定期誘導をくり返した結果、殆どの利用者がトイレでの排泄が出来ている。 汚染時も本人の羞恥心に配慮しながら支援している。	職員全員が、トイレでの自力排せつの重要性を認識しており、利用者の状況を把握し定期誘導を繰り返す努力を継続した結果、殆どの利用者がトイレでの排せつができるようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便日を記載し、便秘にならないように下剤を服薬する他、食事に海藻や食物繊維の摂取などを行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則として1人につき2日に1回の割合で毎日順番に入浴を実施している。また、尿・便汚染の状況によりその都度個別に対応している。	現在は週2回(月・木)午前に入浴。希望があれば土曜日や夜間も入れるように、職員のローテーションを組んではいるが、特に要望は出ていない。入浴時間についても、利用者に希望を聞いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室には利用者様が行きたいときに行きたくてゆっくりと休息できるように支援している。また、夕食後利用者様の意向に合わせてTV視聴できるようにして、満足してからお休み頂くよう配慮している。寝つきの悪い利用者様には、夜勤職員がロビーにて付き添い、話相手になることで落ち着いた睡眠が取れるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方・用量の変更は必ず「申し送り帳」に記載して全職員に周知・徹底しており、服薬時はきちんと飲み込むまで職員が見届けるよう徹底している。疑問点は連携する薬剤師に連絡を取り、その都度助言を受けている。また、服薬ミスが生じたりした場合は「ヒヤリハット」に記載して職員の意識向上に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日々の生活の中から、個々の利用者の得意なことを見極め、色々な役割を担って頂いている。 例えば、麻雀の好きな方や歌の好きな方には出来る限り職員が相手をしたり、ピアノ等の楽器を用いて合唱したりしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や季節のお出かけを企画している。その時は地域の方の協力を得て店舗の駐車場を借りたりしている。	年間に何回か全員で季節行事として花見などに出かけている。散歩は希望する方と毎日のように行っているが、重度化した利用者が増えたことで、買い物や行きたいところ等の個々への対応が難しくなったことに悩んでいる。軽度の利用者を同法人の通所介護の外出に合流させて貰うことも検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様本人やご家族の意向に出来るだけ沿いつつ、本人の能力に合わせて、外出時にお金を渡すことで、買物の楽しみも味わって頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればすぐに電話がかけられる体制になっている。手紙での交流のある方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きの大きな窓で明るい日差しがたっぷり入ってくるリビングは、全体的に淡い色調の壁紙を使用し、木を感じさせる家具を設置するなど「落ち着ける空間づくり」を心掛けている。また、オープンキッチンになっており、調理中の匂いや音・様子も身近に感じられるように工夫している。室内には年中花が飾っており、季節感や安堵感を味わえる環境づくりに努めている。	全員が、1日の殆どを日当たりの良いダイニングで過ごし、午前・午後の機能訓練や食事や語らいの団欒の場所としている。一人になりたい時は、隅に置いてあるソファで寛いだり、デイサービスの一角で過ごされたりしている。トイレや居室などきれいに清掃され尿臭など全くない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを設置しており、花や屋外を見ながらゆっくり寛げる空間になっている。利用者座席も気の合う利用者同士が隣り合うように配慮して配置している。また、テラスにはガーデンテーブルセットが置いてあり、天気の良い日は気の合う同士でお茶を飲むように準備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は出来るだけ使い慣れた物、家族写真や身の回り品等馴染みの物をお持ち頂くようお願いしている。本人の好みの物は出来る限り設置に協力し、少しでも居心地良く過ごせる空間が確保できるよう努めている。	利用者が自宅生活の延長と感じられる様に使い慣れた馴染みの物を部屋に置くことが、心の安定に通じることを職員が熟知しており、入所時の空間作りを支援している。写真などはいつでも見たい時に見られるように保管している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー設計である。トイレの判り辛い人には表示を大きくするなど工夫で残存能力を引き出すよう努めている。		